

Make in India と日本企業

すでに進出している日本企業による
新拠点設立の動きも目立つ。

株式会社アジアにじゅういち
代表取締役 **白水和憲**

インドは長い間、「モノづくりに弱い」と言われてきた。製造現場はアバウトで、消費者もそのアバウトな製造品を諦め気味に受け入れてきた。モディ首相は就任4カ月後の2014年9月、そうしたインドのウィークポイントを克服しようと製造業振興を目的とした「Make in India」(インドでモノづくりを)を国内外に向けて宣言し、製造立国を目指した。

世界経済のけん引役に躍り出る

インドの玄関口インディラ・ガンディー国際空港(10年7月開業)に降り立つと、ここは一瞬シンガポールか、と思ってしまうほどインド感は少ない。空港ターミナル内ではマルチ(スズキ)やヒュンダイ(現代)など出迎えのSUVやバンが次々に現れ、デリー市内に向かう道は車であふれ、市内にはきれいなショッピングモールが並び立つ。インドが年ごとに世界経済の中で存在感を増していることを実感できる風景をデリーだけではなくチェンナイ(タミル・ナド州)やバンガロール(カルナタカ州)など各地で目にする。

例えば、インドの17年度自動車国内販売は402万台、輸出が83万台(インド自動車工業会)。英IHS Markitの調査では、20年にインドの国内販売台数は500万台に達し、日本(466万台)を抜き、

図表1：過去5年間のインドの実質GDP成長率と今後5年間の予測(IMF)



中国、米国に次いで世界第3位となる。

GDP成長率は17年が6.7%だったが、18年以降は7.4%～8.2%を予想(IMF)。17年名目GDP(2兆6110億ドル)は世界第6位であるが、18年には英国を抜くことが確実で、米中日独に次ぎ世界第5位となる。

1人当たり名目GDPはまだ1983ドル(17年)で世界143位だが、人口(13.2億人、17年)が巨大で、22年までの成長率を勘案すると、インドの経済力が飛躍的に巨大化し、世界経済の強力なけん引役となる(図表1、2)。

図表2：
2017年GDP上位10カ国
単位：10億ドル

1	米国	19,391
2	中国	12,015
3	日本	4,872
4	ドイツ	3,685
5	英国	2,625
6	インド	2,611
7	フランス	2,584
8	ブラジル	2,055
9	イタリア	1,938
10	カナダ	1,652

(出所) IMF

25 特別重点分野を成長の推進役に

インドの製造業振興を支えるために外資投資とインフラ整備を図って雇用拡大を実現し、高い経済成長を成し遂げるのが「Make in India」の主眼であるが、その結果、GDPに占める製造業のシェアを17%から2022年までに25%にまで引き上げる。その推進役とするべく25の特別重点分野を指定している(図表3)。

並行して外資に対する規制緩和も進めた。鉄道インフラの外資100%開放、防衛や保険分野への外資出資比率引き上げ(26%から49%へ)、建設分野の要件(投資金額や面積)の緩和など成果も積み上げている。ただし、モディ首相のやる気と政策の方向性には好意的な意見が多いものの、「かけ声だけが目立って、具体化が遅れている案件も多い